



974号
2024年2月20日
郵政産業労働者ユニオン
呉支部発行



←中国地本HPへ
PC・スマホ等から
この情報が閲覧可！



メールはこちら→

各社共に黒字を確保

決算の概要

2月14日、2024年3月期第3四半期(累計)の決算が発表された。日本郵便が赤字から脱却し各社、黒字となった。

郵便・物流事業

取扱数量が、総計で5.3%減少し、ゆうメールが10.6%減となった。ゆうパックが2.1%増、ゆうパケットは7.5%増加した。

2024年3月期 第3四半期(累計)の経営成績 (億円)

	日本郵政グループ	日本郵便	ゆうちょ銀行	かんぽ生命
経常収益	84,326	24,987	19,341	45,607
前年同期比	+208 +0.2%	△1,434 △5.4%	+3,834 24.7%	△2,372 △4.9%
経常利益	5,203	238	3,670	1,254
前年同期比	△134 △2.5%	△803 (△77.1%)	+227 +6.6%	+466 +59.2%
四半期純損益	2,219	248	2,633	651
前年同期比	△1,543(※) △41.0	△670 (△73.0)	+158 6.4%	△110 △14.5%

(※) 日本郵政が保有しているゆうちょ銀行株式の売却(2023年3月)に伴う持ち分比率の低下の影響が含まれている

2024年3月期 通期業績予想

経常利益	6,200	150	4,700	1,400
3Q進捗率	83.9%	158.8%	78.0%	89.6%
当期純利益	2,400	70	3,350	720
3Q進捗率	92.5%	354.5%	78.6%	90.5%

5%増加した。営業収益が前年同期比70.4億円の減収。営業費用は129億円増加し、営業損益は378億円の赤字を計上(前年同期比から83.3億円減少)した。

今後、郵便事業から撤退したクロネコから定形外やパケットの増加が見込まれる。また、郵便料金の値上げで営業損益赤字からの脱却を目指す。

郵便局窓口事業
不動産事業の賃料収入が増収となった。営業費用は、前年同期比150億円の増加。営業利益は前年同期比85億円(14.8%)の増益で660億円。

国際物流事業
営業損益が前年同期比51億円減の54億円。ロジスティクス事業のみ健闘しているが、他事業は軒並み厳しい状況が続いている。ロジスティクス事業以外は、ほぼ利益を生み出せておらず、事業として成立していない状況である。

日本郵便
営業利益は前年同期比78.4億円減の287億円。

四半期純利益は前年同期比670億円減の24億円。営業収益が前年同期比1,401億円減少しており、2024年問題の課題も残る。

ゆうちょ銀行
連結業務純益は、前年同期比3,164億円減の△1,395億円。四半期純利益は前年同期比158億円増の2,633億円。臨時損益として、株式や不動産ファンド等のリスク調整による売却益が、前年同期比3,391億円増加。貯金残高や利益内容に問題はなく、順調な決算内容となっている。

かんぽ生命
基礎利益は前年同期比348億円増の1,697億円。四半期純利益は110億円の651億円。保険金支払いの減少により、営業利益が前年同期比466億円増の1,254億円となった。新規契約の増加傾向は見られるが、それ以上に消滅契約の方が多く、保有契約の減少を止めるまでには至っていない。

携帯端末の二つ持ち

新端末の使用が始まり、1週間が経過した。連休明けで郵便物が多い状況での新端末切り替えは、社員の精神的な負担が大きかった。

初日から、新端末のDataは、位置情報などが示されないエラーが発覚し、旧端末の併用が翌日から始まった。

利益を生み出さないDataの為だけに、携帯端末を配置するなど、無駄な事をする会社である。

また、新端末では、未送信データが残ると締め問題が生じ、内務担当者に負担が掛かる。

どのような条件で、こういった状況になるかは把握していないが、清算して端末を片付けた時に、再度の確認が必要みたいだ。

今後の予定

- 3月12日(火) 17:00~
第5回呉支部執行委員会
支部事務所

次号は 2月27日 予定